

【トラック 2】

(ゆき声の向き：右 距離：普通)

(りお声の向き：左 距離：普通)

りお

「せーんせっ、ふふ、二人っきりだね♪

もとい、あたし達だけだね？

ほーら、先生、もっとりおの隣に来て？

それでー、もっとベタベタしながら勉強教えてよー、

(距離：近づきながら)ねえいいでしょー？ ぎゅーつ」

ゆき

「せーんせ、りおばっかり顎廻するのは駄目ですよね？

だからこっちにもくっついてください、

あ、むしろ、私が寄りましょうか？

ふふこうやって♪ (距離：近く)ぎゅー。」

(左 距離：近く)

りお

「もー、テーブル狭いんだから、そんなにしたら勉強できないじゃん！」

ゆき (右 距離：近く)

「そんなのりおのせいでしょー。…あ、てより」

りお「うん、んふふ」

りおゆき左右から

「先生どうしたんですかー？ なんか、顔赤いんですけど～？」

りお

「りお、もしかしてと思うんだけどお、
教え子の（強調）おっぱい…
腕にあたっちゃって興奮しちゃった……？
ふふつ、なんかはあはあしてるー、
せんせえ、前から思ってたんですけどお、
せんせえはあ、ひょっとして、ど・う・て・い、なのかなあ～？」

ゆき 「先生、童貞なんですか？
ふふ、その顔は、図星って感じですね。
んー、私は別に童貞がどうとか思いませんけど、
でも、童貞で胸に興味があるならあ、
わたしのほうがあ……おっぱいでつかいですよ？
とかいってみたりしてえ♪」

ゆき

「ふふ、生唾飲んでます♪」

りお

「先生、もう我慢できないんですね♪」

ゆきりお左右から

「じゃあ、先生……私たちのおっぱい、た一ぱり味わっちゃってね」

りお

「ん？ 何？ …えええ！？ そ、そんなことよりも勉強！？！？
な、なんでそーなるの！？
いやいや違うってばあ、私たちは勉強したくない口実とかじゃなくってえ！
ねえ、ゆき？」

ゆき

「ふふふ、まあ仕方ありませんね。先生も、きっと心の準備が必要なんでしょう。
ですよね？ ふふふ。
というわけで、りお、とりあえず勉強に集中しましょう。お楽しみはその後、です♪」

りお 「ええー…もう、仕方ないなあ～」

(3 人勉強を始める ・・・ SE 時計の音)

(左 距離：普通)

りお

「ねー先生ー！ この問題なんだけどさー。
あ、なるほど！ そうすればいいんだね、
先生の教え方わかりやすい。
ふふ、お礼のは・ぐ、してあげるね。
……先生、あ・り・が・と (左 距離：近く)ぎゅー♪」

ゆき

「はあ、りお、ぎゅーはしなくていいでしょ。」

(左 距離：近く)

りお

「えー、でも、先生もJKにハグされたほうがきっと嬉しいよー。
それに言葉より態度で示さないとって言葉もあるくらいだしー」

ゆき

「いいから真面目に集中！ 今は勉強って言ったでしょ！」

りお

「はあーい。勉強しまーす、
…て、うん、大丈夫かな？ これなら。
あ、何がっていうとね。えーと」

りお

「(囁き) ね、ね、先生、こっちこっち。 耳貸して？
あのさ。さっき、私たちの胸に興味津々だったでしょ？
ふふふ、そんな顔してもむーだ、あたしわかってるんだから」

りお

「だからさ、さわって、いーよ……？
ほんとほんと。JKのおっぱい触りたくない？
ふふ、ごくんって生唾のんだ～、せーんせ、やらしーんだ～っ」

りお

「じゃあね、こっそりテーブルの下からね？
ゆきにバレたら五月蠅いし、だから、こっそり指先でつんつんってする感じで。
ん…そうそう、そーいう感じ」

りお

「ふふ、先生りおのおっぱいどお？ そこまで大きくはないけど～、
ちゃーんとお指にい、胸の感触するでしょ～？…あ…ツ
あはっ、おっぱいに指食い込むよお。あっ、
だんだん大胆になってきてる～、あん♡
んふふ、先生、じょ・う・ず・だ・よ♪ じょ・う・ず♪
なーんちゃってー、…って、あ、やばつ」

ゆき

「り～お～。何してるんですか～
やばつ、じゃないでしょう、バレないとでも思ってたんですか？
はあ、やれやれ……
でもお、りおのおっぱいにも興味があつたってことはー、
私のにもあるってことですよね？
ふふ、つーまーりー、こーです♪
ほら、手をとってえ、ぎゅーです♪」

ゆき

「んっ、はあ、ふふ、どうですかあ？ 私のおっぱい♪
りおより大きくてえ、むぎゅむぎゅしたらすーごい感触が伝わるでしょー？」

ゆき

「どうですか？ ふふ、そうですか、弾力があって、すっごく気持ちいいですか～？」

ゆき

「ふふ、先生、鼻のしたのびてますよ、どーてい(強調)には刺激、強かったですかね？
息もお、さっき二人で誘惑した時くらいにい、荒いですよう♪」
はい、なんですか？ …勉強？ ふふ、いーんですか、勉強に戻っても。
だって先生のお、さっきからズーと勃起しちゃないですかあ。もっともつ
と教え子のおっぱいいい、欲しいんじやないですかあ？ ううん、それ以上だって、ね
え、先生？」

りお

「ふふ、そうだよ、せーんせ、素直になろうよー。
勉強も、体裁も、年の差も…ぜーんぶ忘れちゃお？
それでえ、童貞さんだからがっつきたいですって素直になっちゃお？
なってえ、りおのおっぱいも、もっともーと触っちゃお？
ね、先生、ほら、手を伸ばして……？
もっともっとやらしーく揉んでいいんだよ……？」

りお

「うん、そうそう、先生上手上手、ふふふ♪」

ゆき

「ああっもうっ、先生っ、りおばっかり！
駄目ですズるいです、だからほら、こっちもちゃんと触って下さいっ。
ん、はあ、そうです。私のおっぱいの弾力もっとちゃんと感じて下さい、
はあ、はあ、そうやって、ゆきのＪＫおっぱい触ってもっと興奮して下さいい♪
はあ♪」

りお

「ん、はあ、だあめ、りおのも離したらだあめ♪
ふふ、ＪＫ二人、揉み比べ興奮しちゃう？
だったらもっとがっついちゃっていいんだよ？
ほらほら、おいで？ ってきやんつ。
わー、わしづかみい♪ ふふ、すっごいがつついてもみもみしちゃってるう♪」

ゆき

「先生もみもみ気持ちいーですかあ？ ジャあ、もっといっぱいもみもみできるよーに、私たちがサービスしてあげちゃいますね♪」

//りお、ゆき、左右から耳元で囁き

りおゆき（囁き）

「もみもみ…もみもみ…（少しずつ息を荒くして）
んつ、ああ、はあ、もみもみ、ん、もみもみ、
ん、ああ、はあ、もみもみ、もみもみ、もみもみ、もみもみ、はあ♪」

ゆき

「ふふっ、先生…私たちにあわせてえ、
しっかり手、動かしちゃってるう。あん、ああ、こんなの感じちゃいそ……♪」

りお

「ふふ、先生、りおたちの胸そんなに良かったんだあ♪
だって、先生てばちゃんと揉むスピード早くなってるしい。
ああ、ああ、はあ、ああ、だめえ、こんなの感じちゃうよお♪
先生上手上手♪」

ゆきりお

「先生上手上手♪」

りお

「ああ、りおも気持ち良くなっちゃう、
で、先生、どっちのおっぱいが気持ちいい？ やっぱりりおのほうだよね？」

ゆき

「んっ、ああ、先生、そんなことないですよね、ああ、私の方ですよね？
ほーら、この手でもっともみもみして、私のほうを選んじゃいましょうよ、ね？」

(左 距離：普通)

りお

「ってええー？ 先生、この期に及んで勉強ー！？
ああ、もう、先生てば頭固いんだから～～…
ここはこーんなになってるのにい？」

ゆき

「そーですよ、先生、身体はさっきから正直に反応し続けてますよ、
ここは、正直になるところでは？」

りお

「はあ、それより定期テストが気になると？
ふふ、じゃ一気がかりから先に払拭してあげるね！
じゃーん！ ほらどーお、こないだのテスト結果！
うん、もうとっくに終わってたんだよね。
で、どう？ ほぼ満点でしょー！」

ゆき

「ふふっ、りおと同じく私もほぼ満点でした。確かクラスでトップでしたね。
ほんと何から何まで先生のおかげです、ありがとうございました♪
で、つきましては言い忘れてたんですけど……
その、なんていうか日頃の感謝を先生にしたいなと思いまして」

りお

「つーまーりー、今日は先生にお礼する日だって決めてたの！
だから、いーぱい誘惑しちゃってたんだよね」

ゆき

「はい、そういうことだったんです。
それに、もうすぐ先生が家庭教師としてうちに来てくれて1年になりますよね。
だから、そういう意味も込めて、私たちからプレゼントってことだったんです。
それでは改めまして。日頃の感謝を込めて、私たちからのプレゼントです。
受け取ってくれますよね、私たちからの」

りおゆき 左右から同時に囁き

「エッチなプ・レ・ゼ・ン・ト♪」

りお

「てなわけで続き続き～♪ んしょっ」

(左 距離：近く)

りお

「(囁き) んふ～、またこの体勢になっちゃった♪
ところで先生ってえ、やっぱり童貞なんでしょう？
ふふ、隠さなくてももうバレバレだよお♪
前からそれっぽかったもんねえ。
だからりおたちが…先生にエッチなこと教えてあげよーと思ってえ♡
えー、駄目なの～？ 先生ってば強情だなあ。
でも、それこそ駄目だよ～。
だって、さっき、良い感じにりおたちのおっぱい触って
先生、すっごくムラムラしてきてるでしょー？
その証拠に、こ・こ。もうまじでガチガチって感じに勃起させちゃってるしさー♪
こんだけ勃起しちゃってたら、もう出したくて出したくて、たまんないでしょ？
エッチなことだけしたくてたまらないでしょ～？
だからあ、もっと色々しちゃお？
ほらほらあ、いいんだよお、今度は服の上からじゃなくてさ、
直接おっぱい触ってみても…♪
ふふ、じゃありお服脱いであげちゃうね、よいしょっと♪」

ゆき

「ふふっ、りおったらあ、破廉恥です♪
だけどそういうことなら、私だって脱いじゃいますから♪
よっと♪ ふう。
ふふっ、先生、食い入るように見てます♪
そんなに私の身体みたかったんですかあ？
だってえ、視線もそうだけど、股間も、ビク、ビクってしちゃってますしい♪
はあ、先生、とってもエッチ、です♪」

ゆき

「ふふ、下着がピンクでとっても可愛いんですね、嬉しいです。
でもお、下着が可愛いのは今日だけじゃなかったんですよ？
先生が来る日は、いつも可愛い下着を着けてたんです♪
ふふ、どーいう意味でしょう♪
ふふふ、先生の思ったとおり、かも知れませんね。
それより先生、お願いがあるんですけどお、
ブラのホック、外してくれませんか？
これ、フロントホックなんで、前から外せちゃいますよ」

(りお 左 距離：普通)

りお

「ふふつ、先生ドギマギしてるー、そんなのでうまくブラ外せるのかなあ？
先生脱がせたことないでしょー、
それにい、私のほうもホック外して欲しいな。
うん、先生におっぱい、みせてあげたいの一♪
あはつ、すっごいきよどってる～。
ふふつ、大丈夫だよ、先生のそーいうところも大好きだ・か・ら♪ ふふつ。
あ、そうだ、こーなつたらさー、りおとゆき、同時にブラのホック外してよー。
大丈夫、外し方は私たちが手取り足取り教えてあげるから、ね。
もちろん外し方だけじゃないよ？その先も……ね。だからいいでしょ、先生。」

りおゆき

「私たちのブラを～」

りお「ぬ・が・せ・て♪」

ゆき「ぬ・が・せ・て・く・だ・さ・い♪」

りお「ほらはやくー」

ゆき「先生、そこがホックですから、こー指でくいっとすれば外れますから」

りお「緊張しないでいいからね」

ゆき「ふふ、ほら、は・や・く♪」

りお「ん、ふふ」

ゆき「んふふ」

りおゆき

「ぴんつ」

りお「あーあ、外しちゃった」

ゆき「あーあ、外しちゃいましたね」

りお「教え子の一」

ゆき「ブラ、外しちゃいましたね」

りお 「ふふ、先生にみられちゃったー」

ゆき 「先生にみられちゃいました♪」

ゆき 「ふふ、どーですか先生、って、あんつ」

りお

「あっ、ん、ああっ、先生♪ もうすごい♪
いきなりがつづいてきてえ、おっぱいもみもみしてる～」

ゆき

「ふふ、JKのおっぱいがそんなに揉みたかったんですね～。
ふふ、普段は興味ない顔でしたが、
実はずーと興味あったの私たち知ってるんですよ？」

りお

「そーだよー、だってえ、チラチラってたまーに胸みてきてたしい。
それにー、制服の時とかはあ、更にい、色々みてきてたしい」

ゆき

「隠さないでいいんですよ？
ジョシコーセーの制服姿に、こーふん、しちゃってたんですね？
じゃあ心ゆくまま私たちの身体を味わって……って、は、はい？」

りお

「え？
はあ、家庭教師として来てるんだから勉強しないわけにはいかない…？
あーん…先生頭固すぎい…！」

ゆき

「もう、先生ってばあ。
まあ、いきなり可愛い教え子にゆ一わくされて
悩殺されかかっててんぱってるってのがほんとなんでしょうけど♪
まあ、いいですよ、それならお勉強しましょうか。
だ・け・ど、単なるお勉強じゃないですよ♪ ね、りお？」

りお

「そうだよね、ここまで来たらただのお勉強なんかできないよね。
だから、うーん、そうだ！
私たちのおっぱい交互に揉みながら勉強するってのはどお？」

ゆき

「もちろん、私はさんせーです♪」

りお

「ふふ、じゃあ先生さっそくはじめちゃお♪
ほらあ…せんせ、ここにい…手をおいて。
ん…っそうそう、そのまま、もみもみって…
ん…ふ…
さっきのテスト…？ え、これ？
ここの間違…？ んん…つ
こ、これは、ここが…こうなる前…につ、
先にここ…をかけて…あつ、
計算する…んん…こ、ここをおつ、だ、代入…し…てえええんん」

ゆき

「えっと…ゆ、ゆきはここ…間違…て、
どうしたら…解けるんですかあ…？ はあ…はあ…
うん…はあ、ああ、ここは、前の問題から…あつ、記号をとってて…あん…
こ、こうですか…？はあはあ…わかりましたああ…」

りお「せんせ…これで合ってる？
あつ、ち、ちくび、クリクリしてえ…
先生、いいよ。その調子だよ♪
ひやあ…パンで下乳持ち上げないでえ、ああんつ
それは、だめえ…っはあはあ。先生やりすぎい♪」

ゆき

「先生…ゆき、ここがわからなくてえ…
はあはあ、この問…題、何回解いてもお…はあ、
答えどおりにならない…つ、んですうつ。
はあああ、ペンで乳首つついちゃいやあ…
もう、こんなん勉強…なんて、できるわけないですう…♪」

りお

「ん…ふう…ん…あ…ああ…つ、
おっぱいをペンで持ち上げられて…
上下に…ゆさゆさしてるう…つあん…つあつ…あつ…
あ…はんつ…ぽいんぽいんって揺らしてるう…
ああ…はあ…はあ…ああん…
ぽいんぽいんってえ…だめええ」

ゆき

「あああんつ、乳首、食い込んでるうう、
ペンがおっぱいにうまっちゃってますうつ。
これダメ…あああつあつ、あん…」

りお

「んつ、ああ、んつ、ふふふ、先生もお、
勉強勉強っていってても、全然勉強、してないよね♪」

ゆき

「はあはあ、先生、もうケダモノです♪
もうエッチなことしたくてやっぱりたまらないんですね♪
ふふ、じゃあ、今度こそお勉強はここまでですよ」

(正面 距離：近く)

りお「うん、りおもこーふんしちゃってもう駄目だからあ。
はあはあ、先生我慢できないよお、もう駄目え。
だから、先生、いっぱいキスしよ、キス、ちゅっ(キス)
こんなんじゃだめえ、もっともっといっぱいキスう♪
ん…ちゅ…ちゅう…ちゅぱ…んん…ん…あ…ん…ちゅぱ…ちゅる…
んちゅ…れろれろ…ちゅるる…んん…ちゅううつ…ふはあ」

ゆき

「はあはありおばっかりずるいですう。
私も、すっかり…興奮しちゃいましたあ
私とも…キスしてくださいい♪
ん…ちゅ…ちゅう…ちゅぱ…んん…ん…
キスしちゃいましたね♡
これで既成事実はできましたから、逃げても無駄ですよ？先生？
(キス 30 秒) …はあはあ
ふふ、いつもと立場が逆ですね、
先生、今度は私たちのエッチなお勉強の始まりですよ。
今日は私たちがた一ぱりご指導、してあげます♪
じゃあ、両脇を、私たちが固めて、こっちは私が、んしょ♪」

りお

「こっちはりおが♪」

(左 距離：近く)

りお

「(囁き)ふふ、近づかれたら立っちゃう？ そんなの今更だよ～♪
さっきからずーとおちんぽはガチガチにそそり立ってるじゃーん。
もうテント張っちゃって、おちんちんの形外からでも丸わかりになっちゃってるよ？
んー？ JKの良い匂いがして～？
ふふ、かわいー、
私たちの匂いでクラクラして、おちんぽびくっとさせちゃったんだ～♪
あんまりにも可愛いからー、
このままテントはったペニス、指先でなぞっちゃお～
下から上へゆっくり～、つ～♪」

ゆき 「ふふ…つ、じゃあ私は、おちんちんをなでなでしてあげますね。
ほらなでなで♪

ふふつ、おちんちんをなでなでしたらビクビク動いて…
先生ったらとっても元気です♪
よしよし。いい子ですね、先生♪
じゃあ私もお、上から下へゆっくり～、つーー♡んふふふ♪
もうすっごい敏感で、ビンビンでえ、もう苦しくてたまらないっていってます♪
だからあ、もうズボン脱がしちゃいますね……♪」

//SE かちゅかちゅスボンを降ろす

りお

「先生のおちんちん、こんななんだ～、
やだー、大きいけど先生のだと思うとなんだかかわいーい♡ それっ、つんつーん♡」

ゆき

「こらこら、可愛いなんていいたら先生がへこんじゃうでしょ。
ここは格好いいって褒めてあげなくちゃ。
先生、とってもガチガチでそそり立ってて、凶悪でかっこいいですよ♪
ふふ、ほんとです♪
じゃあ、私も優しく優しく触っていきますね、二人一緒につんつんしちゃいます♪
ほら、つんつん」

(左 距離：普通)

りおゆき

「つんつん…♡つんつん…♡つんつん…♡」

りお

「ふふっ、もっともっと大きくなって来ちゃったよ？
息もさっきよりも、すっごくはあはあしちゃってるし、
おちんちんもビクビク跳ねてえ、凄いことになっちゃってるよ～？
敏感になってきたんだね～♪
じゃあこの状態でえ、こうやってえ…おちんぽぎゅって握ったらどうなるかな～？
ふふ、びくんついたよ？ 手冷たかった？ それとも気持ち良かった？」

ゆき

「あ、ずるい♪ 私もお…先生のおちんちん、握ります。ぎゅつ♪
握ってえ、にぎにぎってしてえ、ほら、先生みて下さい、先生のおちんちん、ＪＫ
にしっかりと包み込まれてますよ？」

りお 「ふふ、握ってるだけでビクビクしてる～♪ 先生敏感だ～♪

で・も。握るだけじゃないからね、そーだよー、ここから動かしちゃうんだよ～？
今でもびくびくしてるのにい、動かしたらどうなるかなー？」

ゆき

「ふふつ、じゃあ、教え子手コキ、いきますよー…
しーこー、しーこー、しーこー、しーこー。」

りお

「しーこー、しーこー、しーこー、しーこー。
やばーい、先生のおちんぽ、むくうって大きくなったあ、やーらしー」

ゆき

「先生、震えてますよ？大丈夫ですか？
しーこーしーこー、しーこーしーこー、」

ゆきりお

「しーこーしーこお、しーこーしーこお、
はあ…はあ…しこしこ…しこしこ…しこしこ…しこしこ…はあはあ」

りお

「ねね、ゆき見てみて。
せんせーのおちんぽの先っぽから透明な汁出てきてる～。
先生、これ何～？」

ゆき

「これはあ、我・慢・汁って言うんですよ
おちんちん、気持ち良くて気持ち良くて仕方ない～～って泣いているんですよね」

りお

「年下からこーんな風にからかわされて気持ちよくなつてんの～？
先生てばへんたーい。
変態口リコン教師♡」

ゆき

「その調子ですよ♡どんどんお汁出してくださいね
先生の透明なお汁…いい香りがします。
くんくん。(匂いを嗅ぐ音) くんくん…はあ、ステキな香り」

(正面 距離：普通)

りお

「りおも匂いかぐ～ (匂いを嗅ぐ音)

くんくん…くんくん。わ～先生のおちんぽくさーい」

りおゆき

「(匂いを嗅ぐ音)

くんくん…くんくん…はあ…くんくん…はあはあ、くんくん…」

りお

「先生、この透明な汁、ペロペロしちゃうね。

…れええええろ…わあ、変な味い、にがーい」

ゆき

「あん、私も、ペロペロさせてください

…れええええええろ…

はあ、汗臭くてしょっぱくて、男らしい味ですう。」

(2人でおちんちんを這うように舐める
上から下へゆっくり・・・・
下から上へゆっくり・・・・
咥えないで、
先生の顔を見ながら挑発的に舐める)

りおゆき

「…れえええええ…ろおおお……

れええええええええ…ろ。。

…れえええええええ…。ろお…

…ええええええええろお……

れえろれえろ…れえろれえろ…

れえろれえろ…れえろれえろ…

レロレロレロレロ…レロレロレロレロ」

りお

「先生…りお、我慢できなくなっちゃったあ。

先生のおちんぽ、食べちゃって良ーい?

先生の反応、あんあんって言ってウケるんだもん♪

もっといじめたくなっちった」

ゆき (右 距離：近く)

「あら、私も先生の咥えたいのに…
しょうがないわねえ、今日のところはりおに譲ってあげる♡
(囁き) 先生、りおがたーくさん頑張ってじゅぼじゅぼしますからね♡
りおの初めてのフェラチオ、応援してあげてください。」

りお

激しくない可愛らしいフェラ。
後半、ママの激しいフェラとギャップをつけるために控えめに。
フェラが慣れてないけど一生懸命頑張る感じで。
「ほんじゃ、いただきまーす♪
ああああむんん……んン…じゅるじゅる…ちゅぱちゅぱ…
じゅるるるるる…ちゅぱ…ちゅぱ…
んん…先生のおひんぽ…臭くて…苦い…
んはあ…じゅる…ちゅちゅ…ちゅる…
じゅるるる…るる…ちゅ…ちゅぱ… (フェラ4分)」

ゆき

「先生♡先生のおちんぽ、りおがじゅぼじゅぼ咥えてますよ…
JKの口の中はあったかいですかー？
ふふ、教え子にさせてる気分ってどうですかあ？
不慣れなところもあるかと思いますが、応援してあげましょうね。
りおちゃん、頑張れ♪頑張れ♪

ほらほらあ、目を閉じないで。
ちゃーんと見てあげてください
女子高生のこーんな下品な顔、初めてみましたか？
男の人のおちんぽを咥えると顔がきゅってすぼんじゃうんですよ。
ちょっと不細工ですよね～♡
でも普段の生意気なときとのギャップに萌えませんか？
りおちゃん、すっごい美味しそうにじゅぼじゅぼしてますね♡
いつも生意気ばっかり言う口が
今は先生のおちんちんを美味しそうにじゅるじゅるしてますよ。
先生、これがフェラチオですよ。
今日はこれ覚えて帰ってくださいね？
わかりましたか？

大事なところなので何度も復習しましょうね。

フェラチオ…

フェラチオ…

フェラチオ…

フェラチオ…

ふえ、 ら、 ち、 お♡

ふえ、 ら、 ち、 お♡

快感で頭いっぱいってお顔ですね。

ふふつ、 先生たら可愛い。

もうすぐ出そうですか？

良いんですよ、 遠慮なく出しちゃってください♡

りおちゃんの可愛いお口にたくさん精子出して、

もちろんゆきのお口にもくださいね。

ゆきのお口だって先生の精子ほしいですから。

先生♡

精子出して♡せーし、 出して。

出して出して、 出して♡

お口に精子だして♡

りおとゆきのお口に交互に出して♡出して出して出して出して♡

あっあっあっ、 出る、 出る、 出た、 出ましたあ。

ゆきにも、 ゆきにも精子かけてくらさい。

りおと並んでお口開けてますからあ…っ

ああああー… (口開ける)」

りお

「(フェラ。 精子を口に出される)

……～～～！！♡ …はあ、 先生のせーし…いっぱい…♡」

ゆき

「はあああ、 先生の精子、

たくさんお口にかけてくれてありがとうございます…♡」

ゆきりお
「ごっくん」

ゆき
「はあ…む…美味しい♡
ふふ、おちんちんから精子、まだ少し出でますね。
一滴残らず舐めとつてあげます♡」

りお
「りおも、まだ先生の精子欲しいよお…（お掃除フェラ）」

りおゆき お掃除フェラ 1分

ゆき
「もう、先生、まだビンビンじゃないですか。
頑張り屋さんのおちんちんには、
私たちが気持ちいいセックス…教えてあげますね。」

ゆきりお
「大丈夫、優しくするから♡先生」

バイノーラルの定位
普通…30 cm
近く 10 cm
囁き 0 cm